



◎幹事會

千九百三十四年秋獨逸ミュンヘンに開かれる、第七回萬國道路會議の議題調査方の件で、十一月一日幹事會を開いた。參集者は武井、牧野、三浦、佐藤、田中、都筑、小島各幹事並に前に第六回萬國道路會議に出席した藤井眞透博士等で、藤井氏より第七回の各議題に關する説明があり、之等議題についての本會調査方としては、調査委員會を開いて研究することを適當とすと謂ふに決して散會した。

◎國際道路問題調査委員會

本會は第七回萬國道路會議の議題について我國道路の實

際に立脚した意見を提出することになり、斯道の學者實際家六十餘名を委員に依頼して、十一月十八日其の委員總會を東京市丸の内日本俱樂部に開いた、出席者は理事中川内務技監、同山田英太郎氏、同物部博士本會の依頼を快諾せられたる各委員諸氏（別項掲載）等五十七名であつた、會長代理理事中川内務技監から（別項所掲）挨拶の後、藤井委員より各議題に關する説明があつて、晚餐を共にし山田理事の謝辭があつた、食後、再開して左の各部調査主任、副主任を互選し調査方法等を決定して委員總會を終つた。

挨拶

御承知ノ如ク我國ノ道路モ各位ノ御努力ニ依リ中央ト地方トヲ問ハズ順次改良セラレツツアリマスガ自動車交通ガ加速度的ニ普及シツツアルノ現況ニ比較スレバ未ダ之ヲ以テ十分ト言フコトガ出來ナイ或ハ九牛ノ一毛トデモ評スベキ程度デアリマス、從テ我ガ路政界ハ益々多事デアリマシテ改良セラレタル道路モ克ク將來必然的ニ増嵩スル交通量ニ對シテ其ノ規格構造等ガ果シテ交通ノ要求ニ順應シ得ル

ヤ否、或ハ今後要スベキ道路改良事業ニ要スル鉅額ノ費用ノ財源ヲ何ニ求ムベキヤ等ノ問題ハ今後ニ殘サレタ重要ナ調査研究事項デアリマス。

吾ガ道路改良會ニ於キマシテハ從來銳意是等諸問題ノ檢討研究ニ努メテ居タノデアリマスガ、會々第七回國際道路會議ガ明後千九百三十四年九月獨逸「ミュンヘン」ニ於テ開催セラレ其ノ會議ノ議題モ決定致シマシタノデ本會ニ於テモ課セラレタル議題ニ就テ充分ナル調査研究ヲ爲シ其ノ結果ヲ右會議ニ發表シ我國道路ノ狀態ニ對應シタ結論ヲ表明シタイト思フノデアリマス。

固ヨリ歐米各國ニ比シ其ノ發達ニ大キナ「ハンデイキヤツプ」ヲ附セラレタ我國ガ是等諸國ニ伍シテ堂々ノ論陳ヲ張ル爲ニハ十分ナル用意ト覺悟トヲ要スル次第デアリマスガ前所述ベマシタ通り出來ルダケ詳細ナ調査研究ヲ遂ゲ列國ト比肩シテ敢テ遜色ナキ成果ヲ表明シタイト存ズルノデアリマス。

就キマシテハ本會ニ於テ國際道路會議ニ對シ夫々斯道ノ

權威者、實際家ヲ網羅シテ委員ニ依囑シ關係事項ノ調査研究ヲ御願スルコトニナリマシテ本日其ノ方々ノ御參集ヲ願ヒ第一回ノ總會ト致シタ次第デアリマス、委員ニ御願ヒシマシタ方々ハ孰レモ御多忙デ在ラレルコトハ萬々承知致シテ居ルノデアリマスガ先日書面ヲ以テ御願致シマシタニ對シ早速御承諾下サイマシテ斯ク多數御參會ヲ得マシタコトハ主催者トシテ洵ニ感謝シテ居ル次第デ御座イマス。

國際道路會議ノ議題及各委員ノ御擔任ヲ願フ部門等ハ御手許ニ差上ゲテアリマス通りデスガ議題ノ項目ニ付テ見マスト部門ヲ第一部道路築造及維持ニ關スルモノ、第二部道路交通及行政ニ關スルモノノ二部ニ區分シ各部門共三ツ宛ノ議題ヲ課シテアリマス。

此ノ内第一部門ニ付テハ先ヅセメント及瀝青材料ヲ以テスル道路鋪裝等ノ築造並維持ヲ如何ニ有效適切ニ行フベキヤニ付テノ議題デアリマシテ就中土砂道ニ對スル瀝青材料ノ應用方法ヲ如何ニスルヤノ問題モアリマス、本邦道路ノ如ク未ダ重要幹線道路スラ殆ンド土砂道デアルモノノ將來

ニ對シ緊要ナル研究課題方與ヘラレテ居リマス、又都市及其ノ郊外並ニ地方道路ノ鋪裝ヲ築造シ又ハ之ヲ維持スルニ方リ最モ經濟的ニシテ且ツ容易ナル方法如何ノ議題ノ如キハ前述ノ如ク土砂道ガ大部分ヲ占ムル本邦道路ノ解決ニ資スル所多大ナモノガアルノデアリマス、即チ現在ニ於テハ左程マデ重要デナイト考ヘラレル様ナ地方道路ニ於テスラ土砂道ヲ以テシテハ將來ニ於ケル繁劇ナ交通量ニ對シ維持ガ到底應シ切レナイトノ聲ヲ隨所ニ聞カサレル今日最大ノ關心ヲ持タシメル議題ノ一デアリマス。

次ニ第二部門ニ於テハ先ヅ街路、地方道路及鐵道トノ平面交叉部ノ交通安全ヲ確保シ得ル方法ニ關シ法規、交通整理法、交通標識ヲ如何ニ定ムベキヤノ議題ガ提出セラレテアリマスガ御承知ノ通り日ヲ逐テ繁激ヲ加ヘツツアル道路交通ノ無統制ニ因ル事故、特ニ踏切道ニ於ケル信號無視等ヨリ起ル衝突事故ハ日々枚擧ニ遑ナイ有様デアリマス、從來此ノ方面ノ訓練ガ比較的閑却セラレテ居タ我國一般民衆ニ對シテハ交通道德心ノ涵養及交通整理方法ノ確立ハ特ニ

切實ニ其ノ必要ヲ感ズル重大ナル問題デアリマス、次ニ第五ノ問題トシテハ未ダ決定シタモノデアリマセンガ道路經濟ニ關スル問題ガ議題ニ上ルモノト見ラレテ居リマス、道路經濟ニ付キマシテハ第一部門中ニ提出セラレテ居ル築造、維持上ノ經濟的考察モアリマスガ又道路改良事業費ノ財源ヲ何ニ求ムベキヤニ關スル問題モ勿論ヨリ以上大キナ事柄デアリマシテ財政貧弱ナル我國ニ取リマシテハ其ノ研究ハ焦眉ノ急ニ迫ラレテ居ルモノト言フベキデアリマス。

最後ノ道路運輸ガ鐵道、水路及空路運輸トノ共同協力ニ關スル統制ヲ如何ニスベキヤノ問題ニ付キマシテモ是等各業者ガ各々對立シテ協和提携シナイガ爲メニ發達日尙淺キ自動車運輸ガ鐵道、水路運輸ト必要以上ノ競争ヲ敢テシ、或ハ其ノ領域ヲ蠶食シテ相手方ニ不當ナル打撃ヲ蒙ラシメツツアルノ現況ヨリ見マシテモ本問題モ亦諸ニ付スベカラザル重要案件タルコト言フ俟タナイトコロデアリマス。

以上述ベマシタ如ク各問題孰レモ我國ノ現狀及將來ノ趨勢ニ鑑ミ緊要ノ事項ナラザルハナイノデアリマス。

我が道路改良會ハ設立以來一意本邦道路ノ改良ニ力ヲ致シテ居リマスガ此ノ機會ニ於テ是等ノ諸問題ニ關シ調査研究ヲ遂ガ其ノ得タル成案ヲ以テ國際道路會議ニ鑑ミ結果ヲ報告シ或ハ我國ノ狀況ニ照シテ斯克アラネバナラヌトノ意見ヲ表明スルト謂フコトハ本會ノ使命トスルトコロニ全ク適合シタル事柄デアリ又此ノ調査研究ノ結果ハ直ニ以テ今後ノ我國道路ノ改良事業ニ對スル最高唯一ノ指針トシテ汎ク利用セラルベキモノデアリマスルカラ本委員會ノ事業ハ正ニ一石二鳥ノ目的ヲ持ツモノト言フコトガ出來本會トシテハ洵ニ會心ノ一大事業デアルト信ズルノデアリマス。

然シナガラ上述ノ各議題トモ其ノ關聯スルトコロ廣汎多岐ニ互リテ結論ヲ求ムルニ難ク或ハ學理ノ深奥ヲ探究スルニ非ザレバ完全ナル成果ヲ收メ難キモノノミデアルト存ジマスガ各委員ニ於カレマシテハ何卒叙上ノ趣旨ヲ御諒承ノ上特別ノ御盡力ヲ願ヒ適切ナル斷案ヲ下サルベク調査御研究アラント切望致ス次第御座イマス。

第一回委員總會ヲ開クニ方リマシテ本委員會設立ノ趣旨

ヲ簡單ニ申述ベ併セテ各位ノ御盡力ヲ御願ヒ致シマシテ御挨拶ト致シマス。

昭和九年(一九三四年)九月ドイツ國ミュンヘンに於ける第七回國際道路會議の議題

第一部 道路築造及維持に關するもの議題第一

セメントを使用せる結果に就て

コンクリート鋪裝及セメント締マカダム鋪裝に就て路盤、構造、目筋、材料及配合、鋪設、養生、交通と維持等に關する本邦に合理とする計設工法を記述しその結果に就て論究するものである。

論議の要點を局限する爲にワシントン會議後に進歩發達した點に就てのみ論述し、特に經濟的見地に注意を拂つて論議する事を強調してゐる。

従てコンクリート鋪裝に就て全般に亘りて論述しなくてもよいのである。

ワシントン會議では次の項目を特に調査研究せむ事を力説してゐる。

結論第一 縦目筋及横目筋は通常交通、路盤、氣象作用及コンクリートの收縮作用を考慮して設計することが必要である、然しコンクリート鋪裝が目筋なくして實際に成功してゐる例も少くない事實に鑑みて目筋と龜裂との問題に關しては進んで調査研究する事は極めて必要である。

此項は特に基層コンクリートに就て論じたいものである

議題第二

次の道路材料を使用せる結果に就て

A タール

B ビチユーメンとアスファルト

C エマルジョン

之らは各別箇に取扱ふものとす。

之らの材料及之を以て築造せる鋪裝に就て論究するもので、各別箇の章として記述するを要する。

タールは國際道路タール協會の希望に基きエマルジョン

は瀝青乳劑製造者聯合の要求に基くものである。

議題第一と同様にワシントン會議後に得たる進歩發達に就てのみ述べ、特に經濟的見地に注意を拂つて論述する事を強調してゐる、尙その路面の滑り止工法の研究を特に力説してゐる。

ワシントン會議では特に次の項を力説した。

1 タール、ビチユーメン、及アスファルトを路面の改良及修繕に用ふる場合の基本的性質及状態に關しては更に進んで研究の必要ある事を認む。

道路會議の會員は次の如き注意に對して特に注意を拂ふものである。

A 土砂道の路面處理に應用する目的を以て瀝青材料とその他の材料及との混合物に關する組成及工學的性質の研究

B 瀝青材料及骨材との混合に用ふる機械設備の改良

C 氣象作用、路盤、交通量及設計等の如き鋪裝の耐久性及使用價值に影響を及ぼす各種要素の研究

D 次の經濟的條件に關する資料

1 各種路面に於ける運輸費に關するもの

土砂道の路面處理に適用する研究資料としての車輛の運輸費と道路築造及維持費を含む

2 各種路面に於て交通量と維持費との關係

議題第三

都市及其の郊外、並に地方の道路鋪裝を築造及維持するに當り最も經濟にして可能なる方法

之は土質及氣象狀況に應じ各國の何れかに推賞し得べき方法を實際的に比較測定して普遍的價值あるものを述べる。

本題はドイツの希望せる案で經濟的見地から道路築造費と維持費とが最も低廉なる鋪裝を研究するもので如何なる工法をとるか、その結果は如何であるか、何れが最も經濟であるかに關する技術家の判斷考察、更に進んでその推賞するものは何であるか等を包含するものである。

從て議題第二に述べたる經濟的條件に關する資料(1)各種路面に於ける車輛の運輸費、(2)本邦の國土的又は地方

的材料を使用して路盤土質及氣象作用の影響に應じ合理的に施工せる各種鋪裝の築造費、(3)各種路面に於て交通量と維持費との關係等に基きて合理的の選定方法を記述する。

本議題は道路會議創設以來最初の題目である。

從て之に關してワシントン會議で特に豫め研究事項として力説したものはないが次の項目は幾分關聯すると思はれる。

1 財源の乏しい地方で土砂道路面の經濟的有利なる工法を研究する爲に土壤の工學的性質を研究する事を希望する。

2 機械力を用ふる地均し工事に關する試験は荒廢せる地域で行はれた事あるも此種の試験は今後も續行されむことを希望する。

第二部 道路交通及行政に關するもの

議題第四

街路、地方道路及鐵道との平面交叉の部分の交通安全

を確保し得る方法法規、交通整理法及交通標識に關して記述しその技術的配置及設置工法には亙らないものである。

第六回ワシントン會議では大都市とその近郊の交通整理、交通標識及駐車場格納庫等に就て論議し第四回セヴィラ會議で道路取締規則を論議し第三回ロンドン會議で道路上の急緩速車輛の交通整理を論議してゐる。

本議題は從來よりも廣範圍に亙りて街路交通、地方道交通及鐵道との平面交叉の部分の交通等の安全を確保する方法を本邦の法規交通整理法及交通標識等に關して記述するものである。

議題第五

未決定道路經濟に關する問題

議題第六

道路運輸が鐵道、水路及空路運輸となすべき共同協力最も經濟で迅速で同時に快適なるべき交通運輸に關する技術的問題と行政的統制問題の性質を研究するものである。

ある。

此種の問題はワシントン會議で始めて論議されたもので同會議では、「道路運輸に就て他の運輸機關との關係及協力、聯帶又は單獨運輸の妥當性」であつたが從來鐵道とか道路とかの團體が各別箇に之を研究し之を統制する見地から行はれなかつたので同會議では結論第十六で次の如く述べた。

本會議は一九三〇年五月五日乃至十五日に西班牙マドリツドに於ける國際鐵道會議に於て「自動車運輸と鐵道との競争」なる議題のもとに各種運輸機關の協力に關する問題が正式に考慮されたる事を思ひ、而してマドリツド會議の結論を調査して必要とする充分なる研究を進め得る余日なきが故に次の如く結論するものなり。

「將來、道路、鐵道、水路及空路による各種の運輸機關相互の協力及統制を圖る問題はその爲に特に召集さるべき國際會議によりて考慮さるべく而して之らの各種運輸機關の正式代表より構成せられたる聯合委員會が之に關する報告

を作成すべきものなり。」

その後國際商業會議所が道路會議協會に鐵道會議協會を
の他と共同して研究せむ事を希望して來たのでワシントン
會議の決議に基き之に同意し一九三二年パリの準備委員會
で議題を作成し十月の會議で之を確定する事になつて居
る。

從て本會議では道路運輸より見る統制交通を主とする爲
に前述の議題を決定し之に特に技術的又は行政的の統制的
性質の研究を考慮するものである、而して再び各々が他を
無視して單獨に論議する事は避くべきであるから、道路會
議と鐵道會議との理事が互に連絡をとるの要があると考へ
られてゐる。

國際道路問題調査委員名簿

順序不同◎ハ主任○ハ副主任

1 道路築造及維持之部

一部 セメントニ關スル委員

◎内務省土木試験所藤井眞透君、△○内務省大阪土木出張所江守
保平君、△内務省浦和國道改良事務所大石義郎君、△内務省土木
局第一技術課永田年君、△内務省土木試験所高田昭君、△淺野セ
メント株式會社藤井光藏君、△小野田セメント株式會社狩野宗三
君、△内務省土木局國道改良遠藤貞一君、△内務省土木局道路課
田邊繁雄君

二部 瀝青材料ニ關スル委員

◎内務省土木局國道改良岩澤忠恭君、△○内務省土木試験所西川
榮三君、△内務省金町國道改良事務所中島時雄君、△小倉石油株
式會社大道彰君、△東京市道路試験所山本享君、△名古屋市役所
土木部長島敏君、△内務省土木局第一技術課菊地明君、△日本石
油株式會社關根博君、△日本ビテニマルズ株式會社松浦治郎君、
内務省土木局道路課谷口松雄君、△内務省土木試験所山田耕之助
君

三部 人口調密ナル地域及其外部ニ於ケル路面鋪

裝ヲ最モ經濟的條件ニテ築造及維持スル方

法ニ關スル委員

◎内務省土木局第一技術課三浦七郎君、△○内務省土木試験所山

田元君、△同藤井眞透君、同高田昭君、△內務省土木局第一技術課長久保俊夫君、△內務省大阪土木出張所江守保平君、△內務省土木局國道改良池本泰兒君、△東京府土木部來島良亮君、△京都府土木部村山喜一郎君、△大阪府土木部三輪周藏君、△神奈川縣土木部田邊良忠君、△兵庫縣土木部吉岡計之助君、△愛知縣土木部宮島三郎君、△福岡縣土木課坂本一平君、△東京市土木局近新三郎君、△京都市土木局高田景君、△大阪市土木局島重治君、△橫濱市土木局大岡大三君、△神戸市土木部森垣龜一郎君、△名古屋市土木部花井又太郎君、△內務省土木局道路課藤村藤治君、△內務省土木局第一技術課村松義順君

2 道路交通及行政之部

四部

都市内、地方及鐵道トノ平面交叉ノ部分ノ

交通安全ヲ確保シ得ル方法、法規、整理法、

交通標識ニ關スル委員

◎內務省土木局武井群嗣君、△○內務省土木局第一技術課佐藤利恭君、△內務省警保局增田甲子七君、△同小野寺季六君、△大阪府警察部拓植文雄君、△同松本勝年君、△鐵道省井上隆根君、△東京市電氣局熊野省四郎君、△警視廳交通課平山泰二君、△鐵道省池原英治君、△內務省土木局道路課江口見登留君、△同伊藤大

三君、△內務省土木局第一技術課志賀清君

五部 道路畫財源ニ關スル委員

◎內務省都市計畫飯沼一省君、△○內務省地方局大村清一君、△內務省土木局田中好君、△內務省地方局永安百治君、△內務省土木局澤重民君、△內務省都市計畫中島清二君、△內務省地方局財務課鹽原有君、△同岩永賢一君、△大阪市土木部大塚辰治君、△內務省土木局道路課江口見登留君、△同伊藤大三君、△同田邊繁雄君

六部 道路運輸方鐵道、水路及空路運輸トノ共同

協力ニ關スル委員

◎中央大學檜崎敏雄君、△○內務省土木局道路課枝川正一君、△內務省土木局第一技術課永田年君、△內務省土木局第二技術課鈴木雅次君、△內務省都市計畫課榎木寬之君、△東京都市計畫地方委員會近藤謙三郎君、△鐵道省建設局池原英治君、△鐵道省運輸局菅健次郎君、△鐵道省監督局古谷善亮君、△遞信省航空局荒木萬壽夫君、△遞信省管船局長井實行君、△日本交通協會笠松慎太郎君、△東京市電氣局運輸課長瀨川昌邦君、△帝國鐵道協會加藤英一君、△內務省土木局道路課永安仙藏君、△內務省土木局港灣課加藤清君、△內務省土木局河川課增岡尙士君

内務省所管昭和八年度時局匡救

土木費豫算内容

豫算決定間際になつて横槍が入つて一時は政局に重大な結果を招來するかと危まれた内務省所管昭和八年度時局匡救土木費豫算も内相の雅量で事なく濟んでやつと決定し、

六十四議會に提出せられることになつた。内務省の調査による右事業に對する國費、地方費、勞力費の各事業種別毎の計數は左の表の通りで、昭和七年度に引續いて八年度に於ても時局匡救の實を擧げるべく、目下内務省に於て各府縣の事業費配當に付慎重調査中である。

時局匡救土木事業費

總額 一四四、七六五、六七一圓

區分	總額	國費	地方費	勞力費	延人員
町村事業	五一、九二八、八八九 <small>円</small>	三八、九四六、六六七 <small>円</small>	一二、九八二、二二二 <small>円</small>	三一、一五七、三三三 <small>円</small>	四四、五一〇、四七六 <small>人</small>
府縣事業	六二、〇三九、六六八	二六、五九一、八三四	三五、四四七、八三四	三二、八四二、三三四	四六、九一七、六一九
國事業	三〇、七九七、一一四	二三、三一四、七八一	七、四八二、三三三	一五、三九八、五五七	二一、九九七、九三八
計	一四四、七六五、六七一	八八、八五三、二八二	五五、九一二、三八九	七九、三九八、二二四	一一三、四二六、〇三三
内譯					
町村事業	總額	國費	地方費	勞力費	延人員
町村事業費	五一、九二八、八八九 <small>円</small>	三八、九四六、六六七 <small>円</small>	一二、九八二、二二二 <small>円</small>	三一、一五七、三三三 <small>円</small>	四四、五一〇、四七六 <small>人</small>
道路關係	四五、四九五、五五六	三四、一二一、六六七	一一、三七三、八八九	二七、二九七、三三三	三八、九九六、一九〇

治水關係	四、八三三、三三三	三、六二五、〇〇〇	一、二〇八、三三三	二、九〇〇、〇〇〇	四、一四二、八五七
港灣關係	一、六〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	九六〇、〇〇〇	一、三七七、四二九

府縣事業

區分

府縣事業費	六二、〇三九、六六八	二六、五九一、八三四	三五、四四七、八三四	三二、八四二、三三四	四六、九一七、六一九
府縣道改良費	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	二一、四二八、五七一
中小河川改良費	一九、一三五、六六八	九、二八三、八三四	九、八五一、八三四	九、五六七、八三四	一三、六六八、三三四
砂防工事費	六、〇七五、〇〇〇	四、〇五〇、〇〇〇	二、〇二五、〇〇〇	四、八六〇、〇〇〇	六、九四二、八五七
地方港灣改良費	六、八二九、〇〇〇	三、二五八、〇〇〇	三、五七一、〇〇〇	三、四一四、五〇〇	四、八七七、八五七

國事業

區分

國事業費	三〇、七九七、一一四	二二、三一四、七八一	七、四八二、三三三	一五、三九八、五五七	二一、九九七、九三八
國道工事	一五、八七三、五〇〇	一〇、七四九、〇〇〇	五、一二四、五〇〇	七、九三六、七五〇	一一、三三八、二一四
河川事業線上	七、九二一、七三二	七、八四二、三一二	七九、四二〇	三、九六〇、八六六	五、六五八、三八〇
河川事業追加	四〇〇、〇〇〇	二六六、六六六	一三三、三三四	二〇〇、〇〇〇	二八五、七一四
新規河川改修	二、六五一、〇〇〇	一、二七二、〇〇〇	一、三七九、〇〇〇	一、三二五、五〇〇	一、八九三、五七一
砂防線上	一四二、四五八	一二三、八七九	一八、五七九	七、一二九	一〇、一七五、六
砂防追加	三一五、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一五七、五〇〇	二二五、〇〇〇
港灣事業線上	一、六六八、四二四	一、八一八、四二四	△ 一五〇、〇〇〇	八三四、二一二	一九一、七三一
港灣事業追加	五〇〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	三五七、一四三
新規港灣改修	一、三二五、〇〇〇	六六二、五〇〇	六六二、五〇〇	六六二、五〇〇	九四六、四二九